
地域で考える防災対策～災害に強いまちづくり～ 京都・先斗町火災事例から学ぶ

草津市機能別消防団
衣笠総合研究機構 歴史都市防災研究所
金 度源_Kim Dowon
Kim21@fc.ritsumeit.ac.jp

Institute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan Univ., Japan

自己紹介

災害！

国宝1号:南大門(スンレムン)
2008年2月10日消失

復元に
276億ウォン
(国費245億)

文化遺産や歴史都市の防災計画策定に必要となる
調査の方法、合理的な計画の策定方法、防災計画の評価方法に関する研究活動



再生不能な「文化的な価値」を損なわずに
「災害安全性」と「活用可能性」を高める

文部科学省：2003年21C-COE、2008年G-COE
歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点

文化遺産防災学のことはじめ：目標



(寫後前時八前午日九十二月六) (リヨ詰東)橋大條四ニ 時當水出

歴史都市や文化財を
災害から守るための
技術・計画を開発する

歴史から災害に役立つ
技術を学び、現代に活かす

木密、木密地区

木造密集市街地

重点密集市街地：東京・大阪で約2000ha（全国8000ha）

重要伝統的建造物保存地区（文化財としての木密）114

川越市川越（埼玉）・香取市佐原（千葉）

歴史まちづくり法（歴史的風致維持向上計画）：広島県尾道市、三重県亀山市、富山県高岡市、山口県萩市、神奈川県小田原市、神奈川県鎌倉市など全国に62箇所



川越商人の知恵と工夫が生きる蔵造りの町並み



参考文献：後藤治の他<それでも「木密」に住み続けたい>彰国社、2009年

「住みつづけたい、呑みつづけたい、（守りたい）」

迷宮のような商店街：高円寺

歴史的な街並みが残る町

路地のまち 4 m未満の細い道に戸口を並べている：神楽坂

町工場が混在する町：墨田区京島地区

市場

木密の防災上の問題

木造建物は燃えやすい

木密は延焼しやすい

地震で建物が倒壊する

消防車が侵入しにくい

避難路が確保しにくい

- ①狭小な敷地に高密度に建物が立ち並ぶ
- ②地域内の道路、公園等の公共施設が不十分である
- ③老朽化した木造建物が多く存在する（住民も）

木密の魅力を活かすことと防災対策は同時実現が難関！

南草津の木密地区：旧東海道沿い



南草津の木密地区：細い道





京都市先斗町

「花街」先斗町

日本の伝統文化の集積地としての花街
⇒京都市の「京都をつなぐ無形文化遺産」に認定

木造密集市街地に存在する花街

特に歴史的景観・文化の保全と防災の
両立が必要

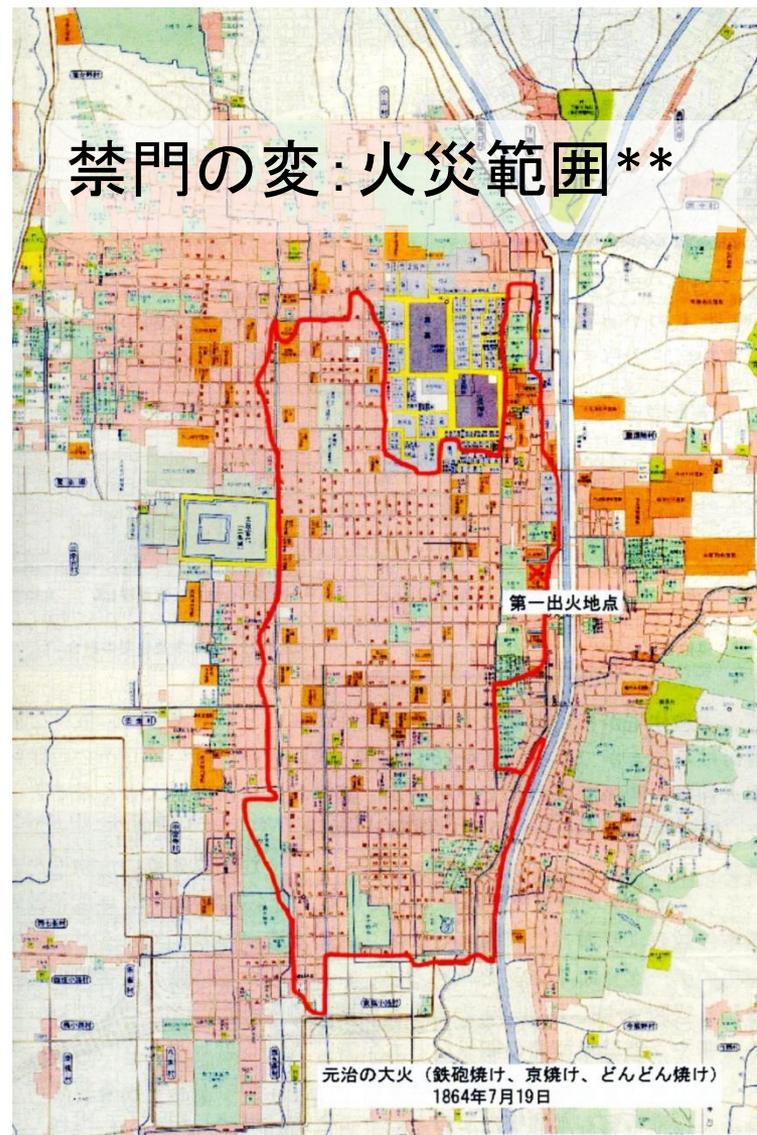
⇒初期消火の仕組みの視点拡充という
意義

三条通りと四条通りの間、鴨川に面す
る

⇒東西50m、南北500mほどの細長い地
区

1813年に歌舞の伎芸にて遊客に待する
芸者が公許

どんどん焼け（1864年）の焼失範囲外
⇒江戸期の建物が残る



先斗町について、今は？

- お茶屋さんと共に多くの飲食店やバーが立ち並ぶ。
- 歴史的な景観と食事を目当てに多くの観光客が訪れる
- 歴史的な町並みとしての制度的な景観保全措置は他の花街に比べて一番近年から取り組んでいる。
- 2012年より景観界わい整備地区への指定変更
- 地区内の道路はすべて道幅が2.7m以下の細街路



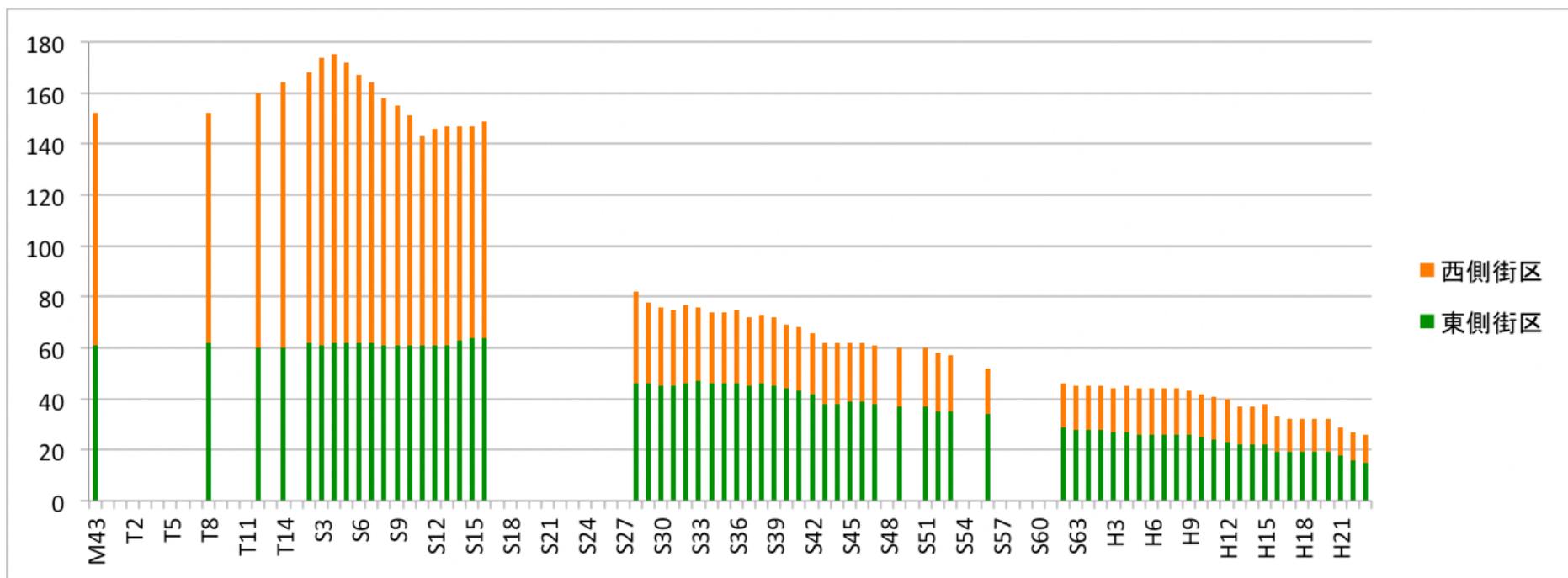
お茶屋の総数の変化

方法：鴨川をどりのパンフレットの「お茶屋一覧」

⇒鴨川側：東側街区、木屋町側：西側街区

152軒(1910、明治43)⇒172軒(1930、昭和5)⇒82軒(1953、昭和28)

現在は25軒のお茶屋が営業（2014年調査当時）



松井大輔、岡井有佳、先斗町花街における茶屋の減少に伴う火災危険性の変化、歴史都市防災論文集、2014年

1954年の先斗町花街

鴨川に面する北東街区にお茶屋が林立

⇒特に、鴨川方面にも路地が伸びてその奥にお茶屋

南東街区もお茶屋は多いが、四条エリアは少ない

西側街区は四条寄りにお茶屋が集中

火災保険特殊地図（1954）上の用途

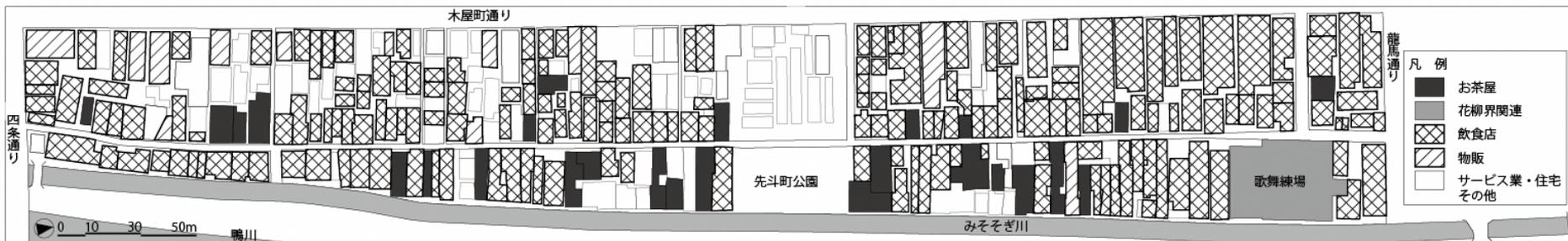


松井大輔、岡井有佳、先斗町花街における茶屋の減少に伴う火災危険性の変化、歴史都市防災論文集、2014年

2013年の先斗町花街

東側街区のほとんどのお茶屋が飲食店へ
⇒北東街区の中央寄りの一部に連続して残る
南東と南西街区においても飲食店が増加

住宅地図（2013）上の用途



松井大輔、岡井有佳、先斗町花街における茶屋の減少に伴う火災危険性の変化、歴史都市防災論文集、2014年

過去の火災調査

：昭和53年4月27日 午前3時20分頃 お茶屋「田川」

今までにも被害規模が一番大きかった当時の状況と消防活動について火災被害周辺住民に聞き取り調査を実施：ますださん、京町さん、丹鶴さん、アトランティスさん

火災内容調査結果

- ・3棟12戸半全焼
- ・火災通報後、現場に駆けつけて間もなく既に延焼が始まった→**初期消火困難**
- ・**路地**から消防隊が進入
- ・**鴨川**から消防隊が進入
- 東西方向のアクセス性**
- ・先斗町公園に人、物を避難させた→**戦時中疎開地**
- ・川床を収納する地下の納屋があったために鴨川に抜けられると思っていた→**2方向避難を可能とさせる建物構造**

路地は消防隊の
進入口

先斗町公園への
避難（モノも）

火災概要

- ・火災発生日時： 昭和53年4月27日 午前3時20分頃
- ・出火元： お茶屋「田川」
- ・被害状況： 3棟12戸半全焼 死者1名

丸山(C-41-1)
(向かい側の)屋根が燃えて炎が向かったので(丸山さんの)入口を壊して侵入し、屋根を壊して放水されていた。

15番路地
木屋町側に消防車を止め、15番路地にホースを通して放水をしていた。

16番路地
16番路地(田川さんの裏の路地)から物凄い火の海になっていた(煙と炎)。女将さん(70歳ほど?)がエプロンと裸足の姿で飛び出して、中にいる舞妓さんを助けるために戻ろうとしたが、周りに集まった方々より止められた。

お茶屋「田川」(C-43-4a,C-45-4)
火災発生(火元)。舞妓さんがきもの襟をふいた脱脂線を手干してそちらにたばこの火が移ったとされる(?)。市梅さんは芸妓であった。



凡例

- 延焼範囲
- 建物・公園
- 路地

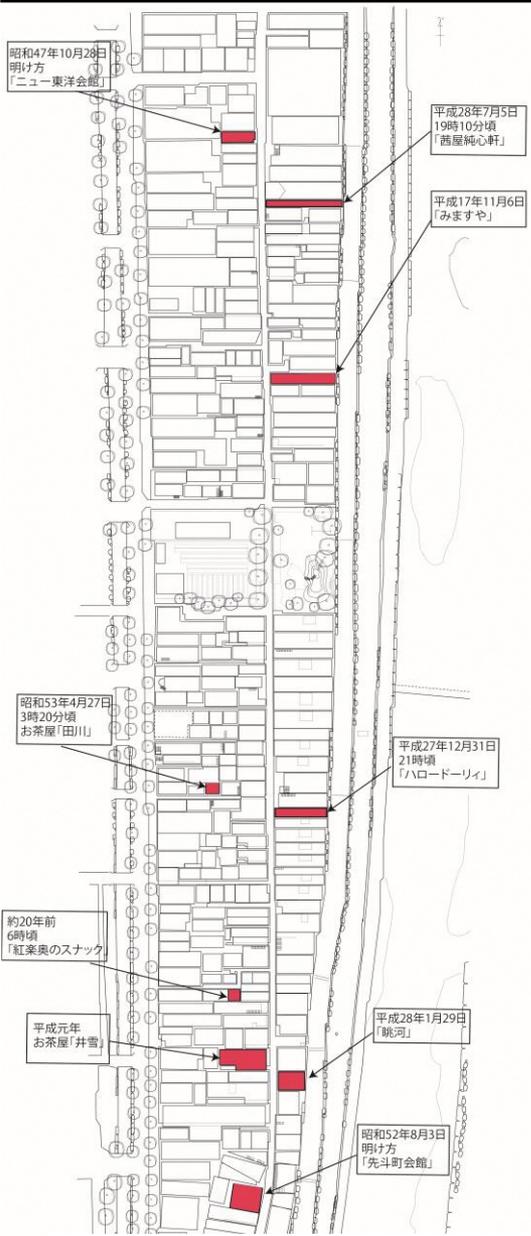
児童公園(F-08-1~F-14-1)
人だけでなく着物や大切なものを公園に避難させた。

「加茂鶴ますだ」(C-40-1)
延焼火災によって一部類焼(半焼)屋根を壊して放水されていた。煙が凄くてその被害が酷かった。1階にあった箆箭の中にも煙が浸みてものに匂いが付いていた。

お茶屋「久川」(F-22-1)
「久川」の裏(鴨川側)に消防車を止め3階にまでホースを通して大屋根から放水をしていた。

鴨川側の建物：お茶屋「丹鶴」
川床を収納する納屋が家の地下にある建物が多く、もし危険だと判断すれば、そこから鴨川に避難できると考えていた。

先斗町における火災履歴調査



松井らの論文¹⁾より、お茶屋から飲食店への土地利用転換が進んだ昭和28年以降に起こった火災を調査。京都新聞、地域住民へのヒアリングにより調査を行った。

- ・昭和47年10月28日 明け方 「A」
- ・昭和52年8月3日 明け方 「B」
- ・昭和53年4月27日 午前3時20分頃 「C」
- ・平成元年 「D」
- ・約20年前 朝6時頃 「E」
- ・平成17年11月6日(?) 「F」
- ・平成28年1月29日 「G」
- ・平成28年7月5日 19時10分頃 「H」

先斗町における火災履歴図

近年発生した火事調査報告

2015年12月31日@ハロードーリィさん（火事騒ぎ）



21時～22時頃

外国人のお客さんよりおけら火を店内に持ち込んだが、危険であるため処分をお願いした。

しばらく時間が経って2階から火事確認のお尋ねがあった。

その後、消防署と消防分団の方より「外におけら火を放置した人」をお尋ねられた。

(Sさん聞き取り調査2/9)

近年発生した火事調査報告

2015年12月31日@ハロードーリィさん（火事騒ぎ）

1階から舞い上がったおけら火の煙が、2階に閉じこもったと考えられる。

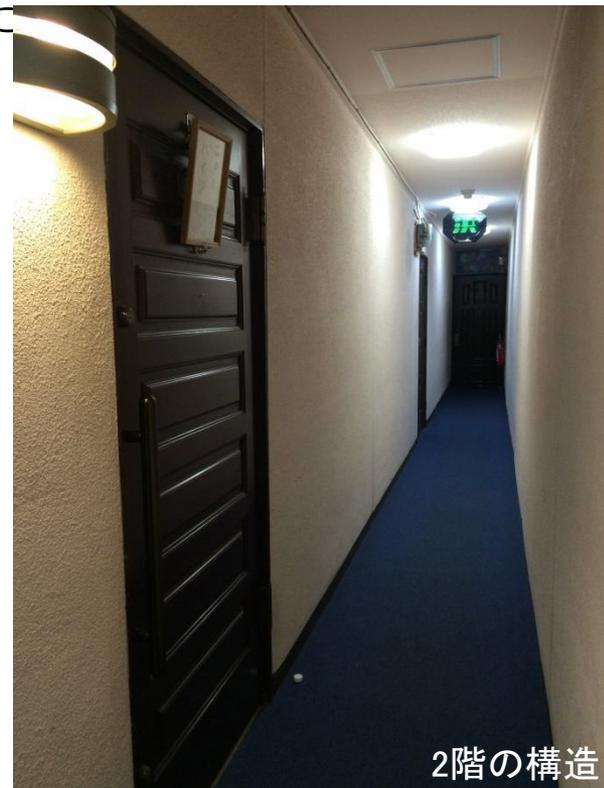
2階の構造上（1方向）煙が抜けず送りがたか



全景



2階から1階への階段部分



2階の構造

近年発生した火事調査報告

2016年1月29日@眺河さん（ダクト着火19時30分頃）

賄いを調理中に油をひいたフライパンが過熱され、水をかいた瞬間に火柱があがる。コンロ上部にある換気扇に火柱が吸い込まれる。ダクト内に溜まっていた汚れに引火し、ダクト周辺が昼間のように明るくなった。

常備の消火器1本（3本中）を使いダクト内の初期消火を実施。

ダクト内に熱が残っていたために消防署に通報。

ダクト内の放水、安全点検を含めて1時間弱で消火活動終了。

→今回の火災を踏まえて、ダクトカバーを新しく購入した。



近年発生した火事調査報告

2016年1月29日@眺河さん（ダクト着火）

消防分団より17番路地から通行止め（避難誘導の迂回路）

東山、下京、中京消防署より出動、四条通の消火栓を使用し放水された



2016年7月5日火災

先斗町で火災

2人搬送 居酒屋から出火

5日午後7時10分ごろ、京都市中京区先斗町通三条下ル、炭火焼き居酒屋「茜屋純心軒」から出火した。同店の南側の建物にも延焼

した。約4時間後にほぼ鎮圧した。(29面に関連記事) 中京署と市消防局によると、同店は木造2階建てで、1階の厨房から火が出てい

るのを従業員が見つけた。19番した。ガラスで右手の甲を切った男性従業員(23)と、煙を吸って気分が悪くなった近所の店の女性客(38)が病院に搬送された。出火当時、店内には約40人の客がいたという。この火事で、同店の延べ約220平方メートルの2階部分

のほか、南側の飲食店木造2階建て延べ約70平方メートルが焼けた。現場は、京都五花街の一つとして知られる先斗町通に面した先斗町歌舞練場の南約20メートル。細い道の両側に飲食店が立ち並び、周辺の飲食店の客や従業員らが避難誘導され、騒然となった。

火災覚知:19時14分
木造瓦葺き3階建て
51m²/232m²消失
その他:5棟一部消失、焼損

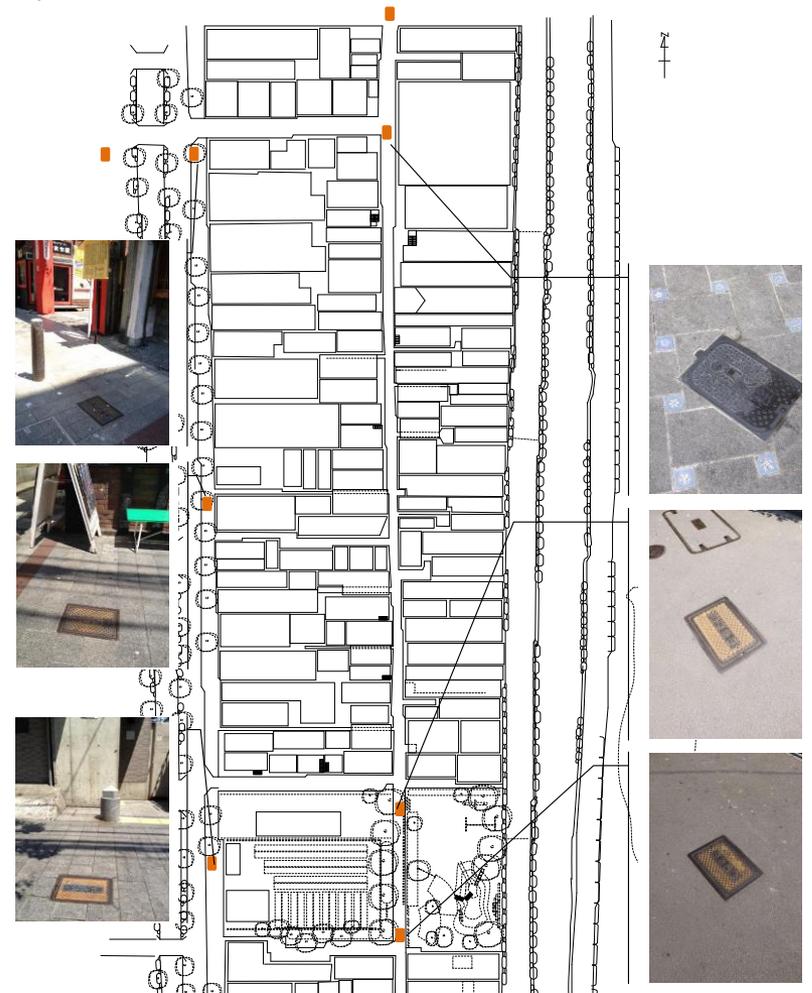
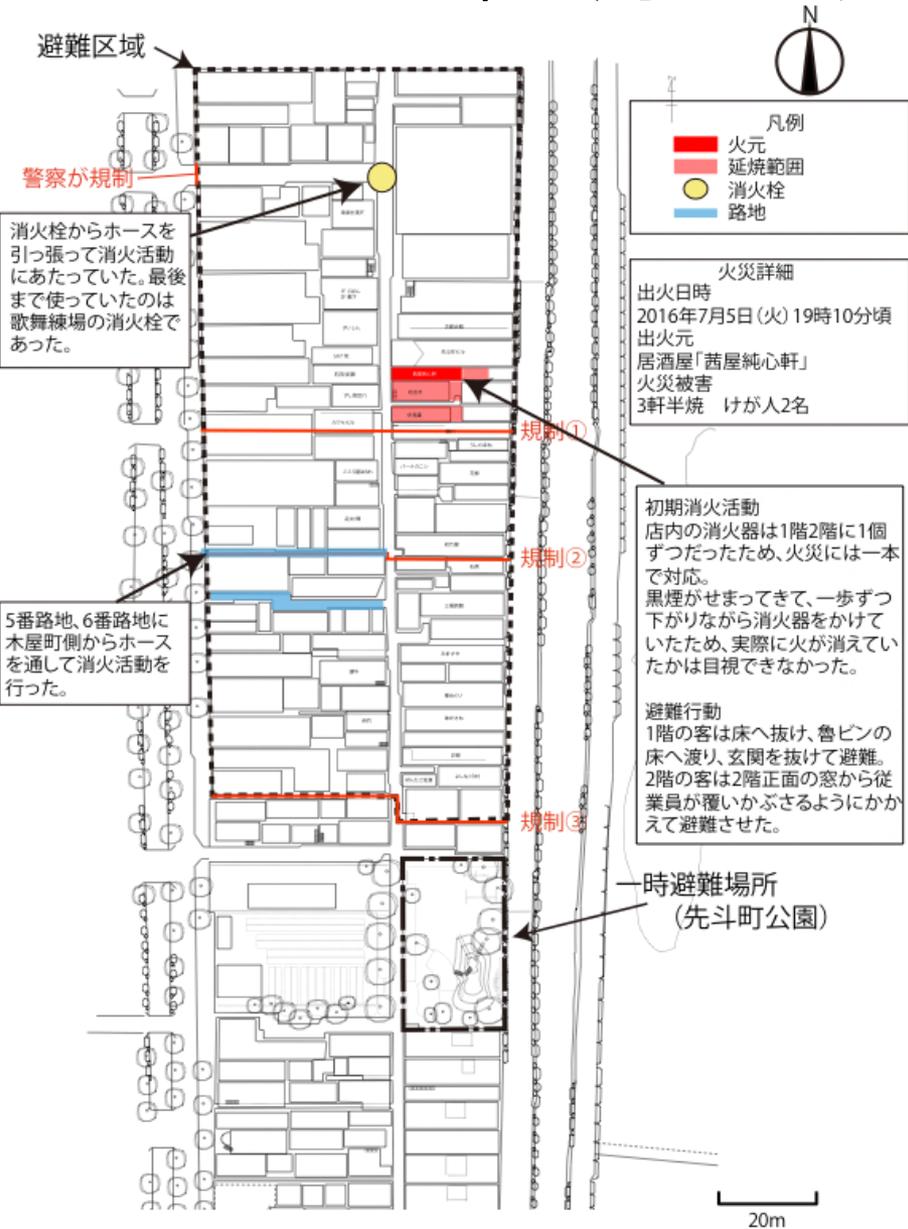
従業員:9名、客:40名
(1階:30名、2階:10名)
2階窓際の客4名は先斗町通側に避難(救出)

消防自動車9/21台11口
鎮圧:23時07分
鎮火:6日6時16分

炎を出して燃える建物(5日午後8時10分、京都市中京区先斗町通三条下ル)

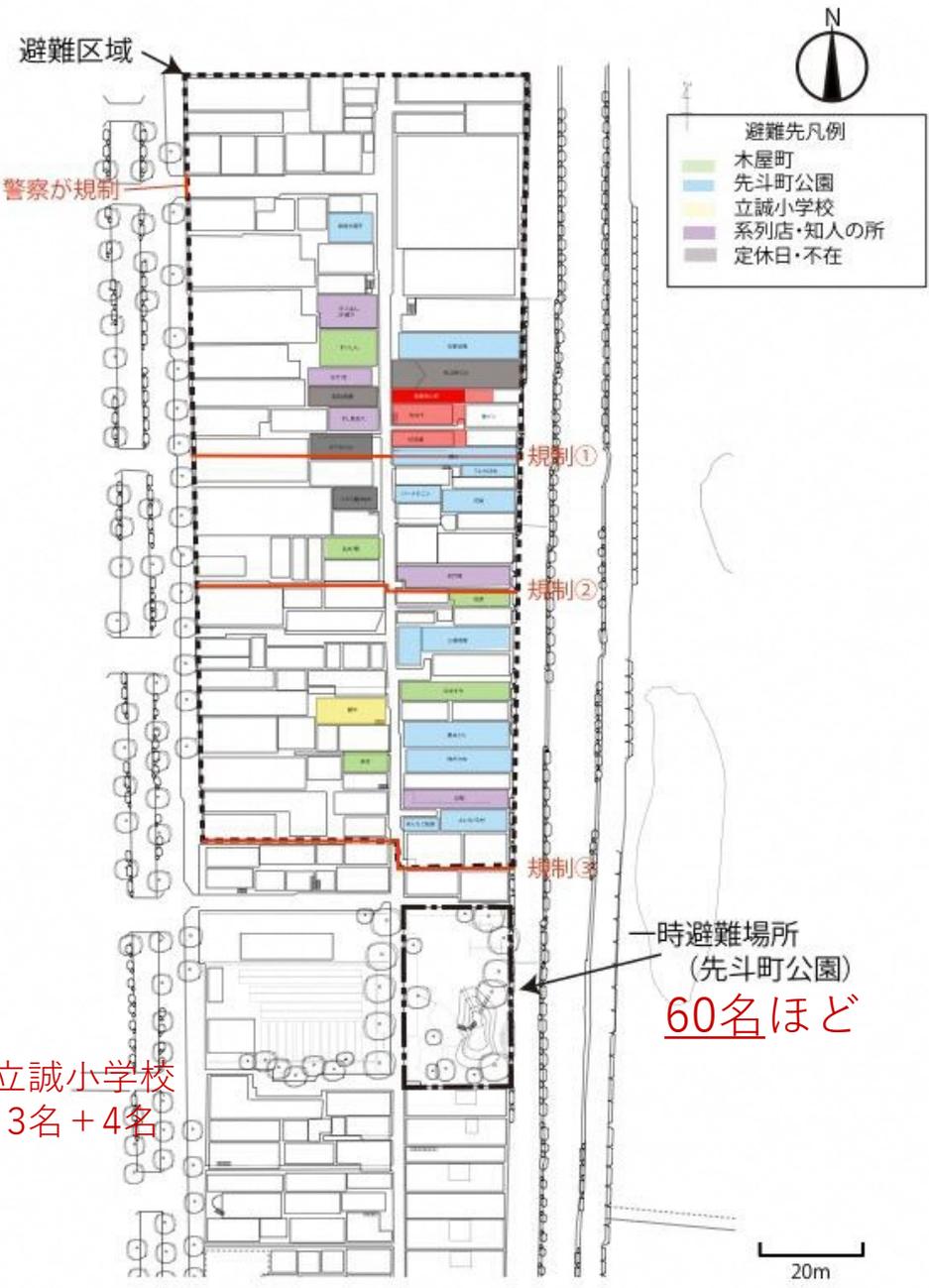
平成28年(2016年)7月6日 京都新聞朝刊

2016年7月5日火災について



2. 地域内、消火栓配置図

→木屋町、西木屋町、先斗町北側入口からの消火栓の設置箇所を基に木屋町通、先斗町通、鴨川から消防隊員が進入



避難の課題

16年7月の火災後聞き取り調査から

●ほとんどの店舗では、

①お客様退席

②従業員の避難

の順で避難している。

※一部ではお客様の避難誘導を行っている→まちの構造を知らないお客様には大変ありがたい

●北側においては一時避難場所として集まれる場所が決まっていなかった？

<災害に強いまち、先斗町？>

今、できることを実践
地域から行政、行政から地域
「まち」としてできること

先斗町「このまち守り隊」
地域住民＋消防＋警察＋中京区
啓発活動

京都市消防局さんがアルバム「先斗町このまち守り隊」結成2年目、今年度も活動します！！」に写真5件を追加しました。

5月26日 13:42

中京消防署では、鴨川の床で賑わう、先斗町界限において「先斗町このまち守り隊」による街頭広報を実施しました。

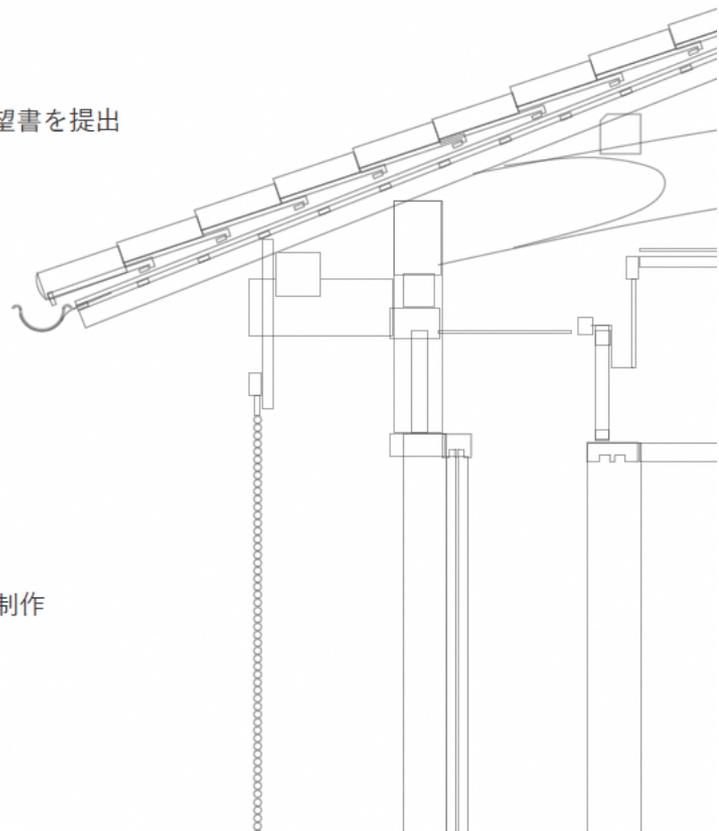
元立誠小学校に集合した「先斗町このまち守り隊」のメンバーで4つの班を結成し、通行人に住宅用火災警報器の適正管理とたばこ火災の防止を呼び掛けるポケットティッシュを配布するとともに、客引き行為防止対策などに関するチラシを配布しました。

* 先斗町このまち守り隊とは、平成28年7月5日に先斗町（中京区先斗町三条下る橋下町）で発生した火災を受け、先斗町まちづくり協議会を中心とした地域組織、消防、警察及び区役所で構成する組織です。

資料提供：先斗町まちづくり協議会、京都市消防局FB

先斗町「このまち守り隊」地域住民＋消防＋警察＋中京区防災活動

- 2007年（平成19年） 京都市新景観政策実施
- 2009年（平成21年） 先斗町の将来を考える集いとして招集
- 2010年（平成22年） 看板対策開始
- 2011年（平成23年） 京都市地域景観づくり協議会制度施行
先斗町町式目第2条屋外広告物に関して施行
先斗町まちづくり協議会に改称
- 2012年（平成24年） 京都市地域景観づくり協議会認定取得
京都市へ界わい景観整備地区への指定変更を求める要望書提出
- 2013年（平成25年） 先斗町町並み調査実施（京都市）
京都市へ『通り・路地整備から無電柱化までの一体的な整備を求める要望書を提出
- 2014年（平成26年） 先斗町通・路地部分での水道管・ガス管入れ替え工事着工
小冊子『このまち - 先斗町 - 01 このまちのために、できること』制作
- 2015年（平成27年） 先斗町軒下花展「先斗町このまちに、花-平成27年-」開催
先斗町界わい景観整備地区界わい景観整備計画施行
先斗町デザイン集『このまちのしつらえ』制作-京都市・協議会共作-
- 2016年（平成28年） 先斗町軒下花展「先斗町このまちに、花-平成28年-」開催
小冊子『このまち - 先斗町 - 02 このまちの記憶、そして思い出』制作
橋下若松町にて火災発生
先斗町火災対策ネットワーク会議開催
先斗町このまち守り隊結成
先斗町火災対応検証訓練（第1回）実施
- 2017年（平成29年） 先斗町軒下花展「先斗町このまちに、花-平成29年-」開催
先斗町通無電柱化事業起工式典（京都市）開催
先斗町通無電柱化事業工事着工
小冊子『このまち - 先斗町 - 03 このまちを守るために、できること』制作
先斗町火災対応検証訓練（第2回）実施



資料提供: 先斗町まちづくり協議会

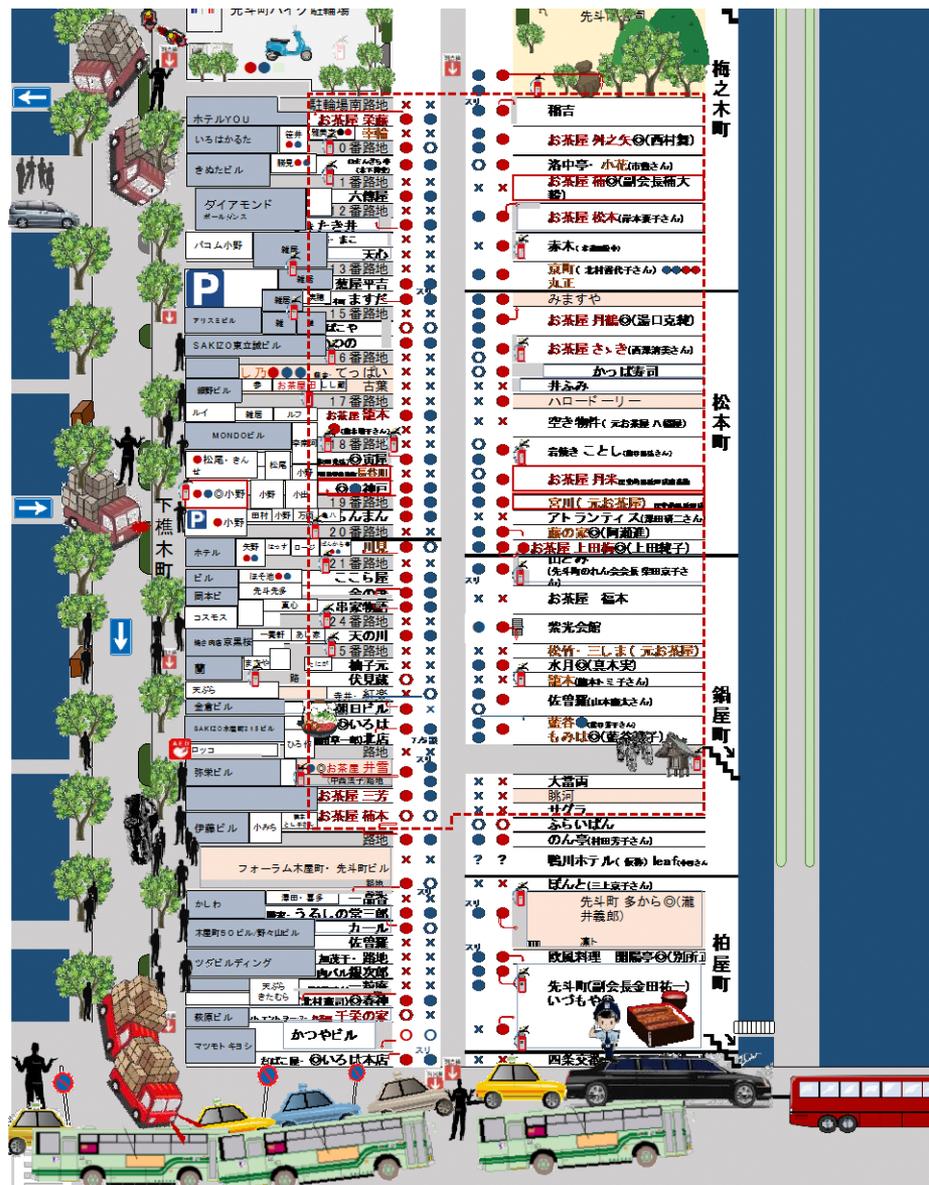
先斗町「このまち守り隊」地域住民＋消防＋警察＋中京区防災活動

17年9月5日納涼床での避難訓練



先斗町「このまち守り隊」地域住民＋消防＋警察＋中京区防災活動

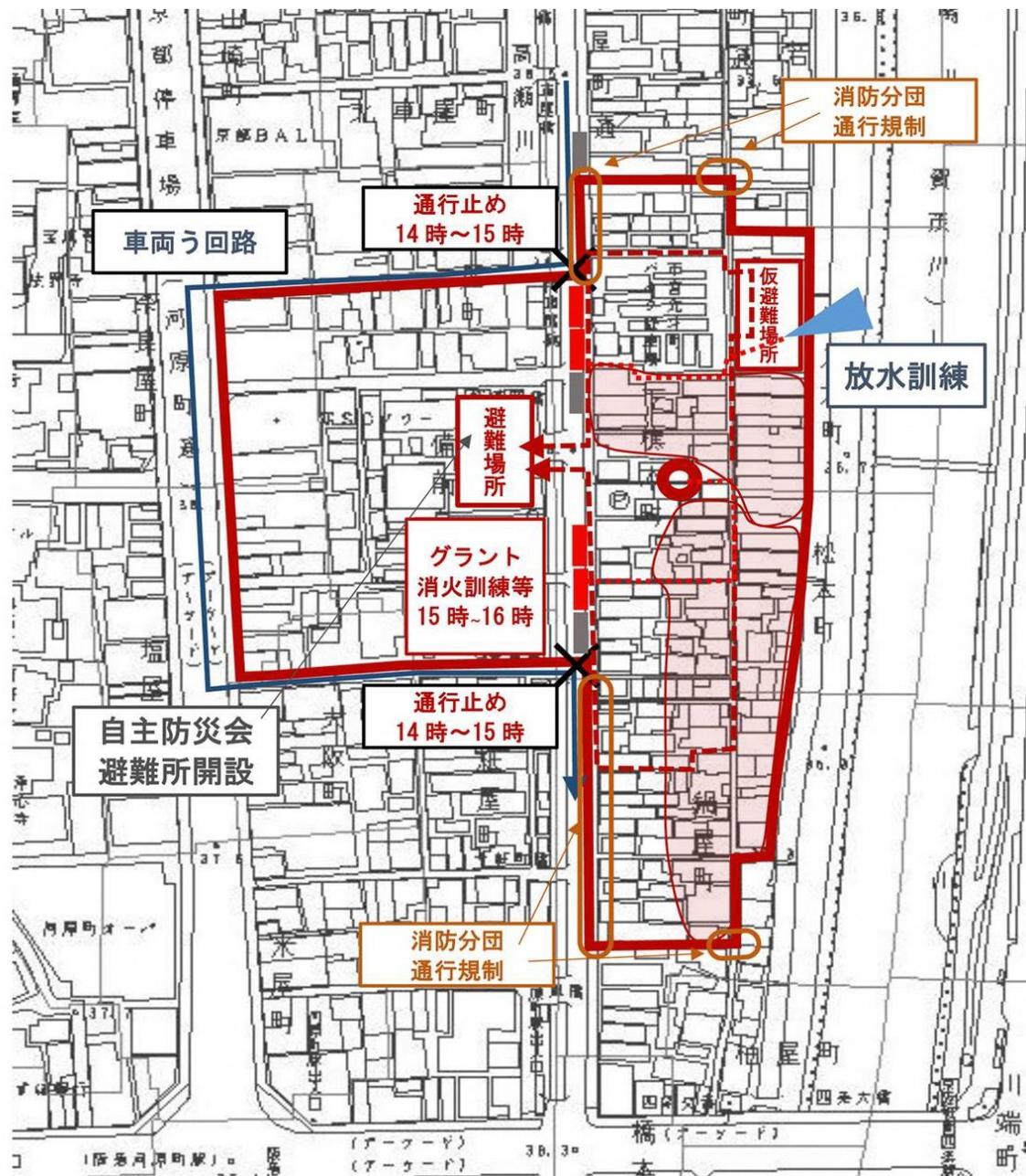
17年7月5日(火災後1年)



このまちでできることの実践
散水栓の共同利用に向けた環境整備

資料提供: 先斗町まちづくり協議会

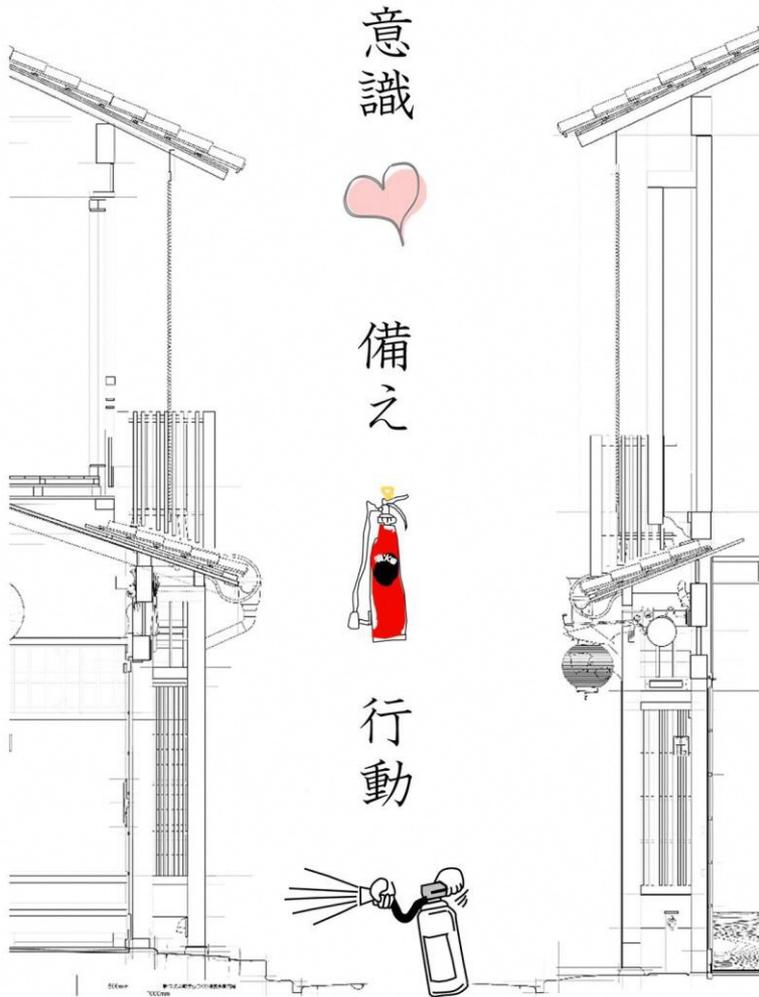
先斗町「このまち守り隊」 火災検証訓練



まちの防災上の問題を理解させる

資料提供: 先斗町まちづくり協議会

このまちへの気持ちで火の用心



平成28年10月26日(月)13時~17時

先斗町このまち防災隊

全戸全事業所への防災啓発巡回を実施します。

同時に消火器・警報器の即売も行いますのでご入り用の方はお申し付けください。

主催 先斗町まちづくり協議会 中京警察署 京都市消防局 中京消防署
共催 立誠自治連合会 立誠自主防災会 立誠消防分団
協力 立命館大学歴史都市防災研究所

資料提供:先斗町まちづくり協議会

災害は防げない（必ず起こる）。被害を最小限に抑えることが大事「減災」
1923年関東大震災、1976年酒田火災
1995阪神淡路大震災、2017年糸魚川市大規模火災

先斗町（京都）は民間からの防災対策を積極的進めてきた
住民から行政、行政から住民
初期消火活動は市民の義務でもある
先斗町通再舗装に向けて防災も考えている

住民が主体になる消防活動（「京都歴史災害データベース」から）

このまち（木密）のできる防災とは？減災とは？
それぞれの魅力がある＝特性があるまちを理解し対策を検討する必要がある
防災まちづくりのアイデア／実例を調査分析



・先斗町が災害に強い理由

①昭和53年の火災から美しいまちとしての復興が可能であった歴史調査

<計画論的アプローチ>

②2方向避難が可能なお茶屋の建物構造:デザインサーベイ

③大規模災害後の復興に向けた制度的サポート構築

④先斗町を守り育てる文化:人的資源、文化教育

火災に強い防災まちづくり

-倉庫備品と初期消火-

立命館大学工学部都市システム工学科（環境都市工学科）

2017年度まちづくり演習都市計画グループ 2班

小川和馬

植本幹大

櫻井琢人

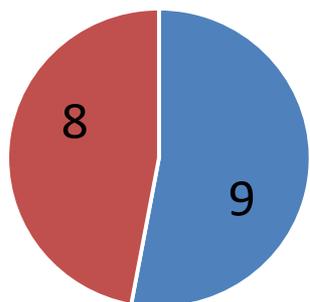
東條裕介

草津市玉川学区の火災対策

- 対象地区：草津市玉川学区
- 消防分団長へのヒアリング調査
 - 道路幅員が狭いところでの消火では、ホースを結合させ消火する
 - 街路に消火器を置かない理由は、120mおきに消火栓を設置している。また、盗難被害などが発生し、管理が難しい。

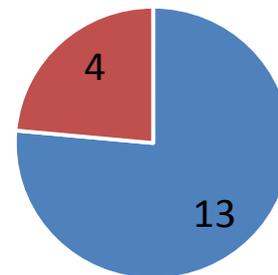
住民アンケート結果(第1回目：17人)

各倉庫を知っているか



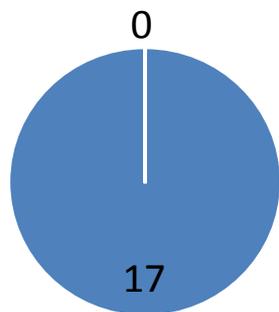
■ 知っている ■ 知らない

避難訓練に参加しているか



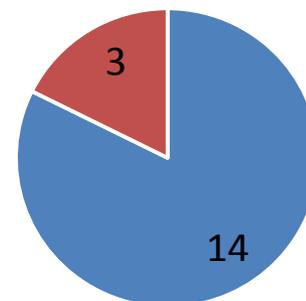
■ はい ■ いいえ

避難場所は知っているか



■ 知っている ■ 知らない

自宅に消火器はあるか



■ はい ■ いいえ

地元住民へのアンケート調査（19人）

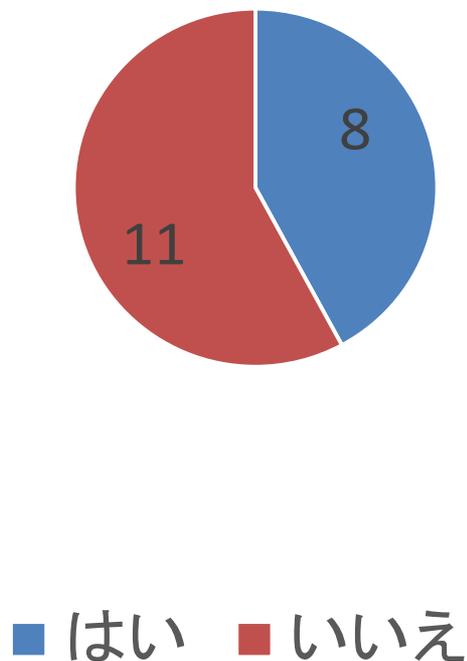
- 日付： 2017年12月18日 12:00～14:00
- 対象者:30代1名、40代1名、50代4名、60代7名、70代5名、80歳以上1名
(男性8人、女性11人の計19名)
- 目的：住民一人一人による消火器の使用可能性を確認
- 対象：一回目と同様、各倉庫を中心として半径約50m内に住んでいる住民にアンケートを実施。(野路区事務所、野路蓮池グラウンド周辺)

調査地区の範囲実態

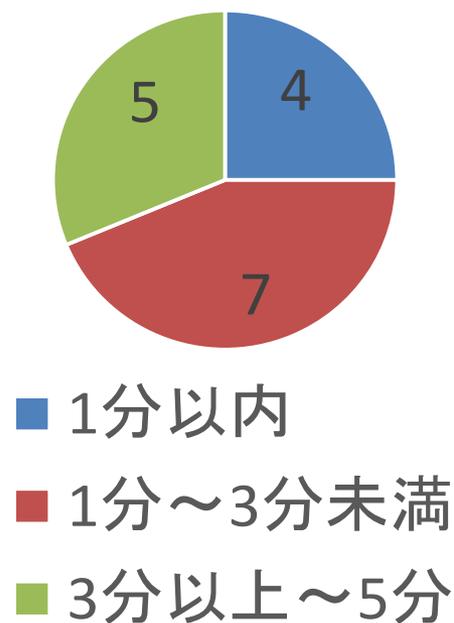


住民アンケート調査結果（19人）

1. 自宅周辺での延焼火災について考えたことはありますか？(計19人)

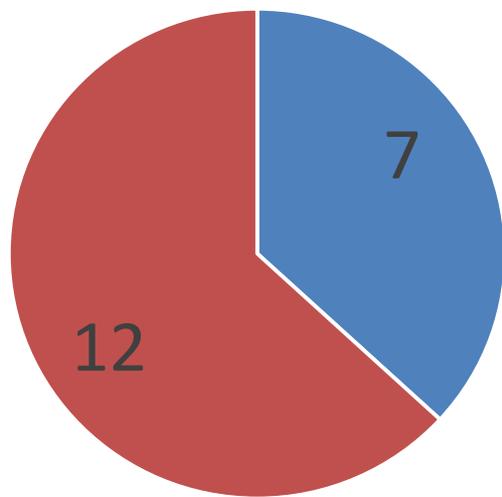


2. 消火器を玄関先まで何秒で持ってこれる場所に保管していますか？
(計16人、未回答3人)



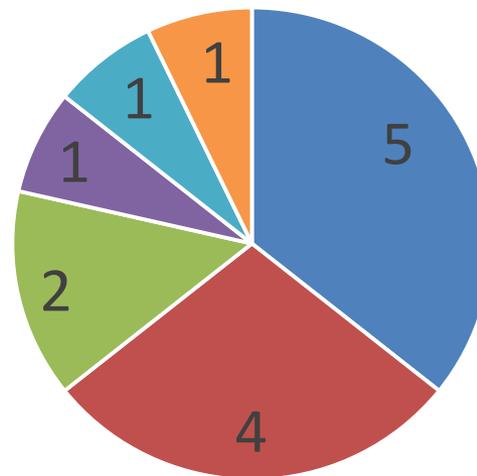
住民アンケート調査結果（19人）

3. 消火器の使用期限は認識していますか？
(計19人)



■ 認識している
■ 認識していない

4. 消火器を家のどこに保管していますか？(計17人)



■ 玄関
■ 倉庫
■ 物置
■ 台所
■ リビング
■ トイレ

玉川学区内の 防災倉庫調査

①消防倉庫
野路区事務所横

②防災倉庫
野路公園

③備蓄倉庫
玉川小学校敷地内

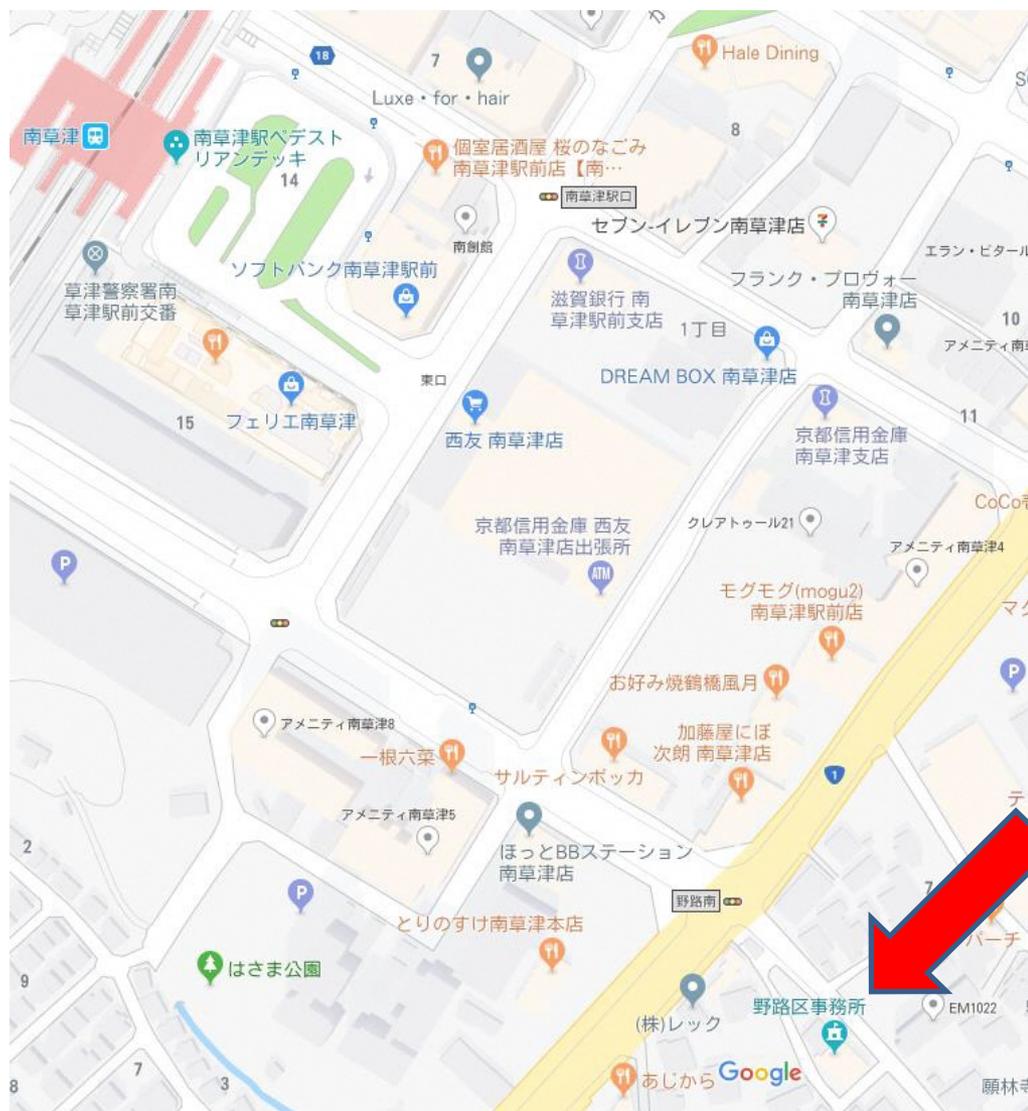


倉庫1

消防倉庫

もともとは消防機材を保管していたが、第8分団（消防団）ができてから消防団のほうに保管するようになり、使用しなくなった。

保管物資	数量
ポンプ用台車	数台

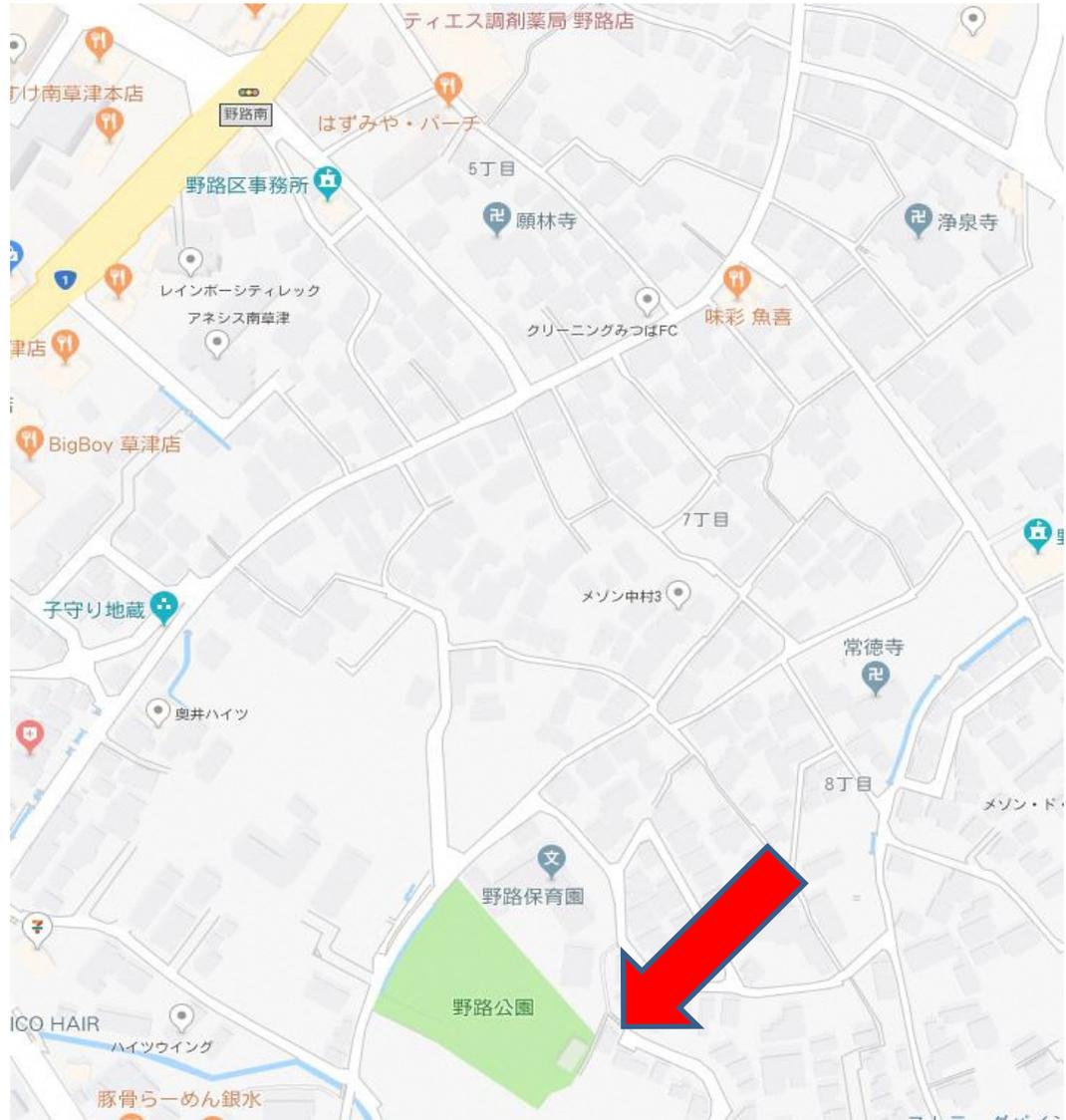


倉庫2

防災倉庫

通常時は倉庫として利用。
月に1回ほど行事で使用するとき
に点検を行う。

保管物資	数量
テント	21
椅子	100



倉庫3

備蓄倉庫

- 玉川学区：11693人
- 在学生：12602人
- 留学生：630人
- 教職員：533人



品名	数量
仮設トイレ(車いす)	4
仮設トイレ(洋式)	12
毛布	340
発電機(ガソリン)	6
救助工具セット	4
エンジンカッター	4
チェンソー	3
懐中電灯	50
タオル	750
バスタオル	225
車両ジャッキ(1t用)	13
チェーンブロック(1t用)	2
浄化装置	2
排水ポンプ	1
アルファー米(きのこ)	900
アルファー米(わかめ)	800
アルファー米(ひじき)	800

倉庫3

- 玉川学区には住民以上に立命館大学生がいると思われるため、従来の備蓄倉庫では不十分の恐れが考えられる
→キャンパス内の災害用物資数を共有することで全体数を把握する
- 倉庫内にある非常食などの量が少ない
→学生数を配慮し、アルファーマイなどの数量の見直し
- 備蓄倉庫内が暗い
→ソーラーパネルを使い、停電時に利用しやすい環境づくり

まとめ

アンケートからわかったこと

- 倉庫の中身について住民はある程度把握していたが、各倉庫に何が置かれているかあまり知っていなかった
- 消火器は家庭ごとに保管場所などがばらばらだった

ヒアリングからわかったこと

- 倉庫1は消防団が組織された以降、使われていない
- 倉庫とその周辺が夜間とても暗い



気候変動と災害

Build Back Better

災害を教訓にし、次の災害からの被害を減らす

このまちの防災に（直ぐにでも）役立つことを実践する

南草津に必要な防災対策とは？

ご静聴ありがとうございました。

金 度源_Kim Dowon